

論文番号 31

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Moderate Alcohol Consumption and Risk of Coronary Heart Disease Among Women With Type 2 Diabetes Mellitus

2型糖尿病女性における中等度飲酒と冠動脈疾患との関連

執筆者

Caren G. Solomon et al

掲載誌(番号又は発行年月日)

Circulation.2000; 102:494-499

キーワード

diabetes mellitus/coronary disease/alcohol/risk factors

要旨

(背景) 一般的健康人においては、適度な飲酒は冠動脈心疾患のリスクを減少させることが明らかになっている。我々は、循環器疾患のハイリスクグループである2型糖尿病に罹患している女性について、飲酒と冠動脈心疾患の関連を前向き評価した。

(方法・結果) 我々は、Nurse's Health Studyの中の、30歳以上で糖尿病の診断のついた女性について調査した。1980年から1994年、計39,092人年の中に、295例の冠動脈心疾患があった。その内194例は非致命的な心筋梗塞であり、101例は致命的な冠動脈心疾患であった。関連因子を調整してロジスティック回帰分析により飲酒の冠動脈心疾患に関する相対危険度を算出した。飲酒をしない糖尿病女性と比較して、一日あたり0.1gから4.9gのアルコールを日常飲酒している糖尿病の女性は、非致命的、または致命的な冠動脈心疾患発症での年齢調整後相対危険度は、0.74(95%CI:0.56-0.98)であった。そして一日あたり5g以上の飲酒者に関しては、同0.48(95%CI:0.32-0.72)(P for trend<0.0001)であった。飲酒と冠動脈心疾患との逆相関は、いくつかの飲酒以外の冠動脈疾患危険因子を調節した上での多変量解析によっても、明らかであった。(0.1 to 4.9g/d:RR 0.72[95%CI 0.54-0.96]; ≥5.0g/d:RR 0.45[0.29-0.68]) 飲酒以外の冠動脈心疾患のリスクファクターの有無にサブグループ化して同様の解析を行っても(喫煙の有無、BMI25以上/未満、高血圧の有無、心筋梗塞の家族歴の有無に分類)、飲酒量と冠動脈心疾患発症は逆相関し、同様の傾向がみられた。

(結論) 飲酒の危険の可能性については未だ考慮の余地があるものの、この研究のデータは、適量飲酒は糖尿病女性の冠動脈心疾患のリスク低下に関連付けることができ、糖尿病患者に対して飲酒を一律に禁止するべきではないことが示唆された。